

公開用文書

研究計画「人工知能の利活用を見据えた超音波デジタル画像のデータベース構築」の実施に関して

<研究概要と目的>

現在、医療の分野では大量の医療情報を収集し（データベースの構築）、そのデータベースを用いて人工知能（AI）を開発し、患者さんにより最適な医療を提供しようとする試みが始まっています。超音波検査の分野でも、大量の超音波画像データを収集し、それを用いて超音波診断を支援するAIを開発することが可能です。この研究は、日本医療研究開発機構（臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業）より資金提供を受け、日本超音波医学会の主導により、超音波画像と臨床検査データを収集する仕組みを整え、データベースを構築し、超音波診断を支援するAIを開発していこうとするものです。今回、近畿大学が中心となって全国各施設と協力し、肝腫瘍症例を集めて、今後の診断（とくに画像診断）に活かすことが出来る様に研究が計画されました（多施設共同研究）。奈良県立医科大学も本研究に参加し、肝腫瘍のデータ提供施設として研究に参加しています。

<研究対象者と研究方法>

本研究の対象となる方は、奈良県立医科大学附属病院で腹部超音波検査を受け、肝腫瘍と診断された方です。肝腫瘍が写っている超音波画像を、その超音波検査所見、採血データ（肝炎ウイルス、自己抗体、腫瘍マーカー、血液生化学）や臨床情報（既往歴、生活習慣、家族歴）などとセットで収集します。超音波画像や採血データには符号が割り当てられ、そのみでは個人を特定できない（だれのデータかわからない）ように加工されたのち（匿名化）、京都大学医学研究科医療情報学講座（〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54）に設置された中央データベースに送信され、データが蓄積されます。このデータベースは、肝臓、あるいは乳腺腫瘍の診断を行うAIを開発するために利用されます。匿名化されたデータ（だれのものかわからないように加工されたデータ）はAI開発を行う施設にて解析される予定です。

<研究期間>

研究期間は、奈良県立医科大学医の倫理審査委員会承認後10年間です。

（奈良県立医科大学では2007年4月以降に腹部超音波検査にて診断された肝腫瘍症例を含む）尚、本研究は5年毎に定期的な研究計画の見直しを行う予定である。

<個人情報の保護について>

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんので

ご安心ください。データは上記外部研究施設に集約されますが、その際も個人の特定は出来ない形式で対応されます。不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。なお、研究にデータを提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

<研究責任者>

奈良県立医科大学 総合画像診断センター 平井都始子

〒643-8522 奈良県橿原市四条町840

TEL : 0744-29-8900

<代表研究施設>

近畿大医学部附属病院消化器内科（日本超音波医学会理事長）

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東 377-2

TEL 072-366-0221 FAX 072-366-0206

研究代表者：主任教授 工藤 正俊（消化器内科・主任教授）

…………… お問い合わせ先 ……………

奈良県立医科大学 総合画像診断センター 丸上 永晃

〒643-8522 奈良県橿原市四条町840

TEL : 0744-29-8900